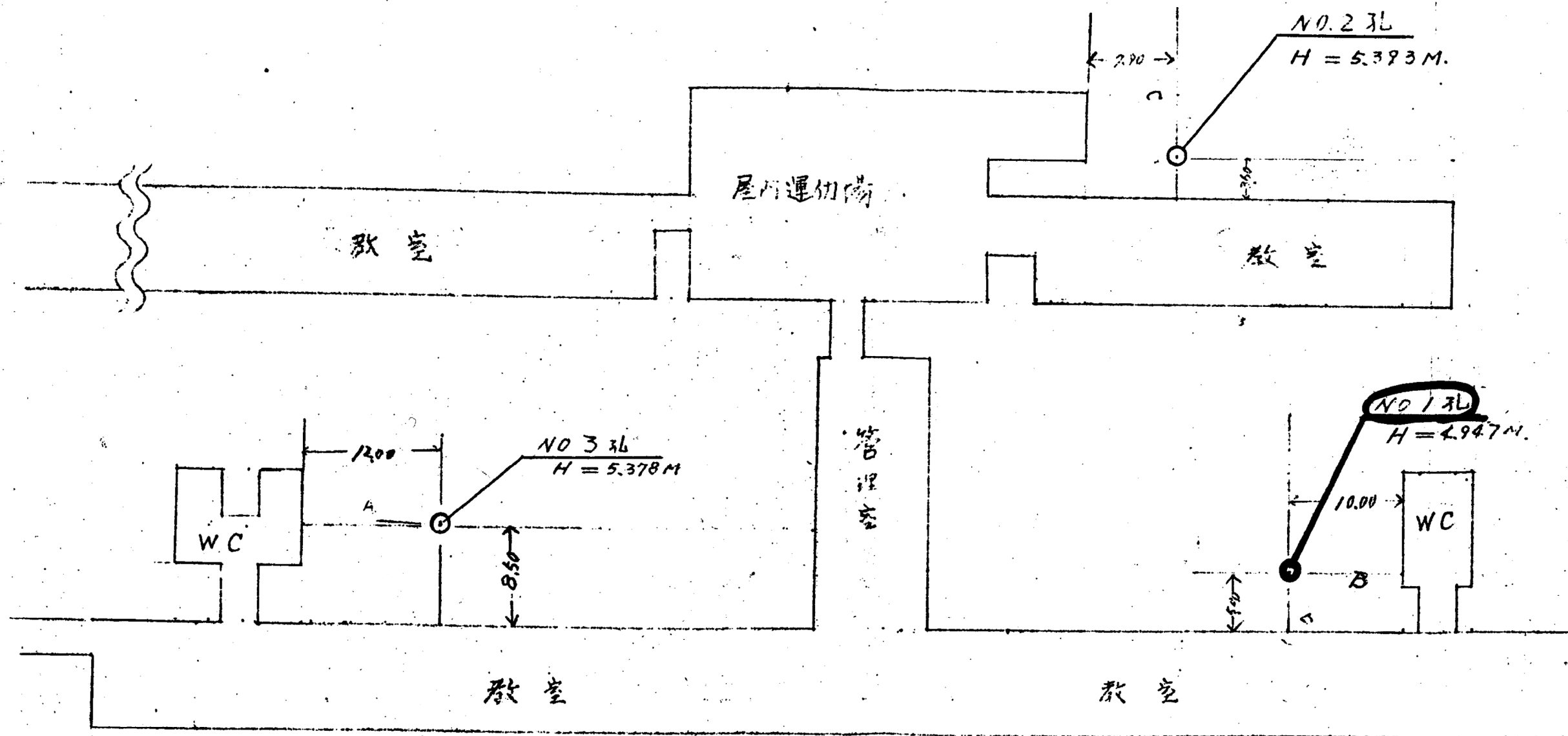


斜里中学校改築工事基礎地質調査

$\sigma = 1/500$

位置図



斜里中学校敷地

A --- B 23.60M

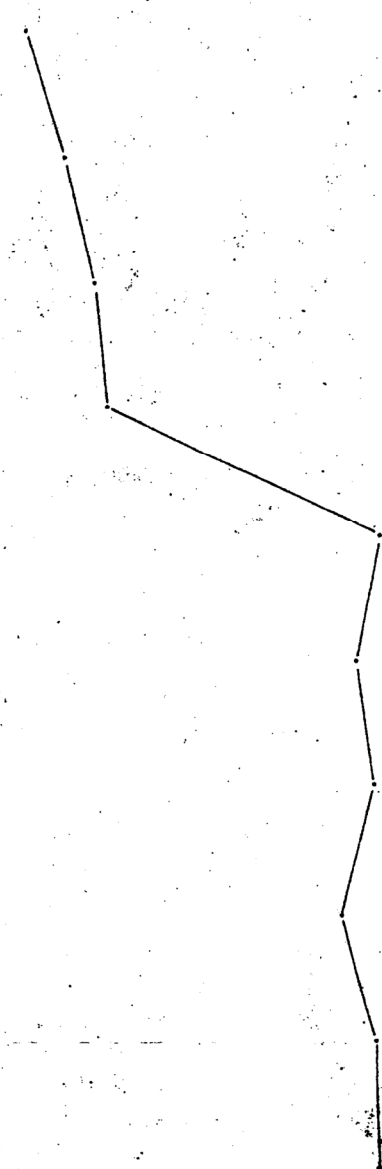
C --- D 37.00M



ボーリング及び標準貫入試験成果図

拓北地下開発株式会社

調査年月日		昭和51年10月6日~10月9日			調査地点標高		H=5.378M										
調査場所名		科里中学校改築工事基礎地質調査			地下水位		0.40M										
調査地点番号		NO. 3			担当責任者		広沢高三郎										
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質柱状図	色調	土質名	観察	試験試料			標準貫入試験						
								採取方法	試料番号	採取深度 (m)	採取率 (%)	試験深度 (m)	N値	N値			
												0	10	20	30	40	50
1	5.378	0.18	0.22	0.60	0.48	茶褐	粘質土	コ									
2		0.60	0.45	0.80	0.35	灰褐	粘質土										
3		1.60	0.75			暗灰褐	粗粒砂	ア									
4		4.00	2.40					イ				3.65	11/30				
5								キ									
6						灰褐	砂礫	ク				5.65	14/30				
7								コ									
8		8.00	4.00					カ				7.65	16/30				
9		9.00	1.00			暗灰	中粒砂	キ				7.95					
10		10.00	1.00			灰褐	粗粒砂	ク				9.65	50/30				
11		11.00	1.00			灰褐	砂礫	ク				9.95					
12								ケ				11.65	47/30				
13								ケ				11.95					
14								ケ				13.65	49/30				
15						灰褐	砂礫	ケ				13.95					
16								ケ				15.65	45/30				
17								ケ				15.95					
18								ケ				17.65	49/30				
19								ケ				17.95					
20		20.00	9.00					ケ				19.65	50/30				
												19.95					



構造設計標準仕様

適用は ●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 斜里中学校 屋内運動場 改築工事
 建築場所 北海道斜里郡斜里町文光町51番5,6,7
- (2) 工事種別 ●新築 □増築 □増改築 □改築
- (3) 構造種別
 木造 (W) 補強コンクリートブロック造 (CB) 鉄骨造 (S)
 鉄筋コンクリート造 (RC) 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
 プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階数
 地下 階 地上 2 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 体育館
- (6) 屋上付属物
 広告塔 高架水槽 ton
 煙突 キュービクル ton
- (7) 増築計画 有 () 無
- (8) 付帯工事
 門塙 擁壁
- (9) 特別な荷重
 エレベータ 人乗(コブ式 油圧式) リフト ton ホイスト ton
 倉庫積載床用 Kg/m² 受水槽 ton
- (10) 構造計算ルート X方向ルート (3) Y方向ルート (3)
- (11) 準拠基準 特記なきは国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事共通仕様書」(建築工事編)平成22年度版に準拠する。

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	スランプ cm	備考
捨コンクリート	●普通	13、16		
	□普通	18、21		
土間コンクリート	●普通	18、21、24		
躯体	●普通 □軽量	18、21、24		比重
	□普通 □軽量	18、21、24		比重
押えコンクリート	□普通 □軽量	18、21、24		比重

(2) コンクリートブロック (CB)

- A種 B種 C種 厚 100、120、150、190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	●SD295A	D10~D16	●重ね継手
	□SD295B		
	●SD345	D19~D25	●ガス圧継手
丸 鋼	●SR235		□特殊継手
	□		()
溶接金網	□		

(4) 鉄骨

種類	使用箇所		現場溶接	設計溶接強度
	種類	使用箇所		
鋼 材	□BCR295 ●SN400B	H鋼柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	●1.0F
	●SN400A ●SN400B	H鋼梁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	●1.0F
	●SM490A □SN490B ●SN400C		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	●1.0F
	●SSC400 □SS400	C鋼	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	●1.0F
備考				

(5) ボルト

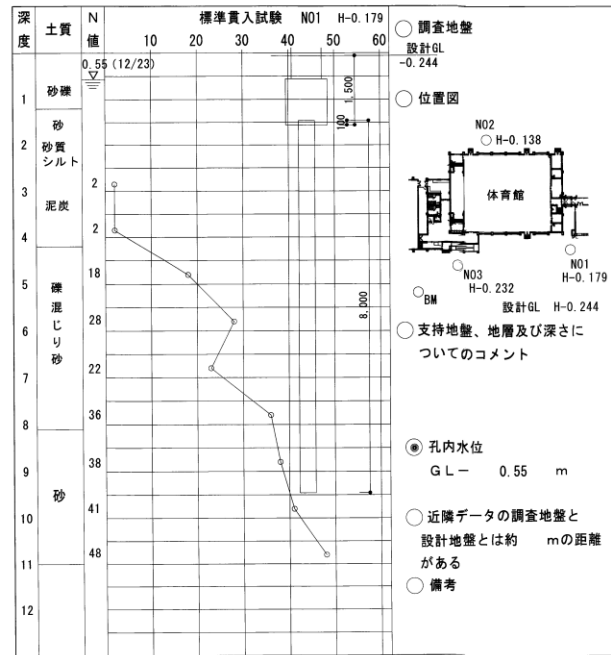
- 高力ボルト □F10T □S8T □S10T 認定品 (□M12 ●M16 ●M20 ●M22 □M24)
 中ボルト φ = 13 φ = 高力ボルトすべり係数試験 要 否
 ●アンカーボルト φ = L = mm ナット (シングル、ダブル)
 φ = L = mm
 頭付スタッド φ = L = mm

(6) 屋根、床、壁

- ALC板 厚 使用箇所
 折版 形式 H = 厚
 デッキプレート 形式 Fデッキ 厚=0.8mm
 キーストンプレート 形式 厚

3. 地盤

- (1) 地盤調査
 有 (●敷地内 □近隣) ●ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
 無 (調査予定 □有 ●無) □
- (2) 地盤調査計画
 ボーリング調査 □静的貫入試験 ●標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
 土質試験 □物理調査 □平板載荷試験 □
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果より、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無
 有 無

(2) 基礎杭 支持層

杭種	材 料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PC (□A種 □B種 □C種)	□打ち込み	
●PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (□A種 □B種 ●C種)	●HIFB工法(プレローリング拡大機構の工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 □SS400 □STK400	□	大臣認定書 年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭	コンクリート F _c = スランプ cm セメント量 Kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	□オールケーシング □摩擦杭 □リブササキケーシング □振動杭 □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 □手掘 □機械掘	試験杭 日本建築センター認定 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書

試験杭 (□有 □無) (□打ち込み □載荷) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項
350φ	580kN/本	9.4m	104	

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
 ●コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
 ●セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 ●調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
 ●フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
 ●構造体コンクリート現場の圧縮度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
 ●ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄筋
 ●鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
 ●鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準(1)(2)」による。
 ●D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 ●ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回試験は5本以上とする。
 外観検査 ●有 □無、引張試験 ●有 □無、超音波深傷試験 □有 ●無
 ●柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 S型 (スパイラル型) W型 (溶接型)
 S型 (スパイラル型) とする。
 ●コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取組要綱」第4条の試験機関で行うこと。
 試験機関名
 代行業者名
 代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
- (3) 型枠
 ●材料 合板厚 12mmを標準とする。 □
 ●型枠設置期間

種類 部位	せき板				支 柱			
	基礎、梁、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下		はり下	
セメントの種類 平均気温	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度	50N/cm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%	

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下は原則として行わない。
 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上直下のコンクリート打ち後とする。
 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
 ● 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工字技術指針」
 ● 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
 (2) 工事監督者の承認を必要とするもの
 ●制作工場 ●製作要領書 ●工作図 ●施工計画書
 建設省告示第1103号による認定工場 (大臣認定 グレードまたは都登録 M ランク)
- 材料規格証明書または試験成績書
 ●鋼材 ●高力ボルト ●特殊ボルト □スタッドボルト
 社内検査表
 (3) 工事監督者が行う検査項目
 (印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
 現状検査 ●組立・開先検査 ●製品検査
 建方検査
 (4) 接合部の溶接は下記によること
 ● 東京都アーク溶接「工事管理基準 (建築構造設計指針第12章)」
 ● 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取組要綱 (建築構造設計指針第12章)
 ● 日本建築学会「溶接作業基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、IX」
 (5) 接合部の検査
 ● 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社内	第三者	工事監督者	
●突合せ溶接部	超音波深傷試験	100%	%	%	
	外観(目視)検査	%	%	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					

第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注) 現場検閲については原則として第三者による全数検閲を行うこと。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
 ● 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
 (6) 防錆塗装
 ● 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合部の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
 ● 現場における高力ボルト接合部及び接合部の現地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

- 吹付ロックウール

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
 ● 設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。
 ● 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
 ● 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
 ● 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

